

概要版

子どもに夢を！ 地域に輝きを！

南部地域がまとまる、つながる、元気になる。



(仮称)南部コラボセンター基本構想

平成26年(2014年) 3月 豊中市

はじめに

豊中市の南部地域は、歴史のあるまちで活気にあふれています。とりわけ昭和に入ってから、商工業を中心に発展し、人口も急増しました。駅前に集積する商業は賑わいを生み、ものづくり企業の集積はまちに豊かさをもたらしました。また、由緒ある神社や大阪音楽大学が立地するなど歴史的・文化的な社会資源が豊富で、祭りなどを通じたご近所づきあいは下町らしい人情味のある豊かな風土を生み出しています。

一方で、少子高齢化が進み、まちの活気に陰りが見えはじめています。また、長期の景気低迷などによる社会経済環境の変化は、地域経済や住民生活、更には、次世代を担う子どもたちの健やかな育ちにも影響を及ぼすことが懸念されています。

この基本構想は、整備検討会議や市民会議、ラウンドテーブルなどの意見を集約し、求められる施設とその機能、連携のあり方、取り組むべき事業のイメージをまとめたものです。今後は、この基本構想を基礎として、（仮称）南部コラボセンター建設に向けて皆さまのご意見をお聴きしながら調査検討を進め、さらに具体化させてまいります。



豊中市南部地域の公共施設等の分布

(仮称)南部コラボセンター実現に向けた 5つの基本方針

方針1. 地域へのほこりと南部地域のブランドを 市民が主体となって創造する

地域へのほこりと地域ブランドを市民が主体となって創造する取り組みを喚起し、支援し、南部地域内外へ発信します。



方針2. 生活面の課題を改善し、「いきいきと」 「充実した」暮らしと福祉を実現する

南部地域にかかる教育や福祉など関連する施策やネットワークの連携・整備・充実を図り、住民への直接的な支援と、自律した生活に向けた支援を行い、地域住民の「いきいきと」「充実した」暮らしと福祉の実現をめざします。



方針3. 地域を担う次世代を地域全体で育む

(仮称)南部コラボセンターは、教育、子育て支援の拠点として、地域を担う次世代を南部地域全体で育むしくみづくりに取り組みます。

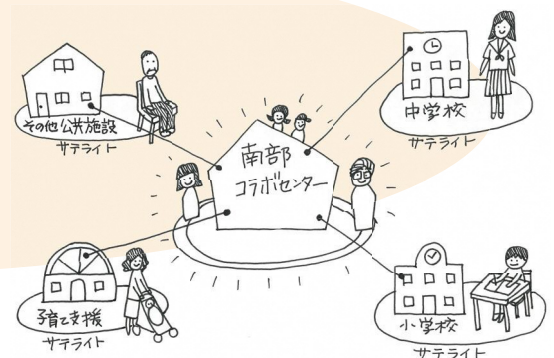


方針4. 老朽化し、散在する公共施設やサービスを取りまとめ、 市民サービスの拠点を形成する

市有施設の有効活用の観点も踏まえて、複合的な機能を備えた施設を整備し、ワンストップ型の市民サービスの向上を図ります。また、市民、事業者、NPO、市との協働によるまちづくりに向けたネットワークの拠点施設としての機能の充実を進めます。

方針5. 地域の教育環境の再編と連動、連携して地域ぐるみの教育に取り組む ～ (仮称)南部コラボセンターの機能を補う サテライト機能の設置 ～

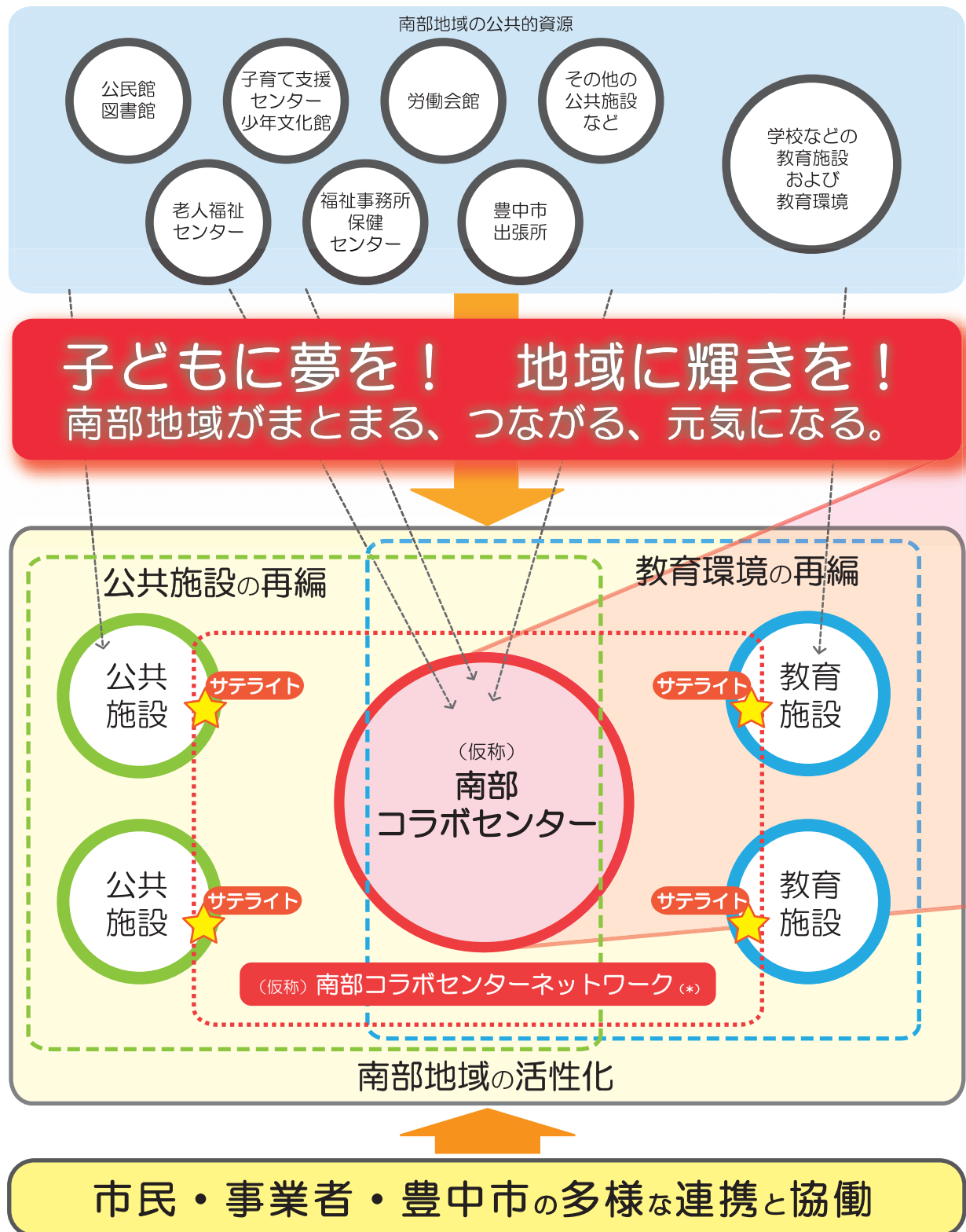
南部地域の活性化に向けた各種取り組みの拠点となる複合施設の整備と合わせて、小中学校などの教育施設や地域のコミュニティの拠点となっている公共施設などにサテライト機能を設置することで、ネットワークを形成し、地域ぐるみで教育環境の向上を進めます。



(仮称)南部コラボセンター実現に向けた (仮称)南部コラボセンタービジョン

本構想の特徴は、地域全体の公共施設の再編と教育環境の再編を並行して行い、地域のきめ細かなネットワークと地域外や多様な事業者ともつながる大きなネットワーク、すなわち、「(仮称)南部コラボセンターネットワーク」を形成し、拠点施設として(仮称)南部コラボセンターを位置づけていることにあります。

めざしているのは、広域かつ多様な歴史・文化を有する地域が、多様なしくみや事業によってつながり、南部地域が元気になるとともに、地域を担う子どもたちが夢や希望を持てるようになることです。そこで、基本構想を広く南部地域の市民で共有し、具体化していくためのキャッチフレーズとなる(仮称)南部コラボセンタービジョンは、以下のとおりとします。



(*) (仮称)南部コラボセンターネットワークとは、(仮称)南部コラボセンターを拠点に、小中学校などの教育施設や公共施設などにサテライトを設置し、行政、地域団体、事業者などが連携して、南部地域全体の活性化に取り組む大きなしくみです。

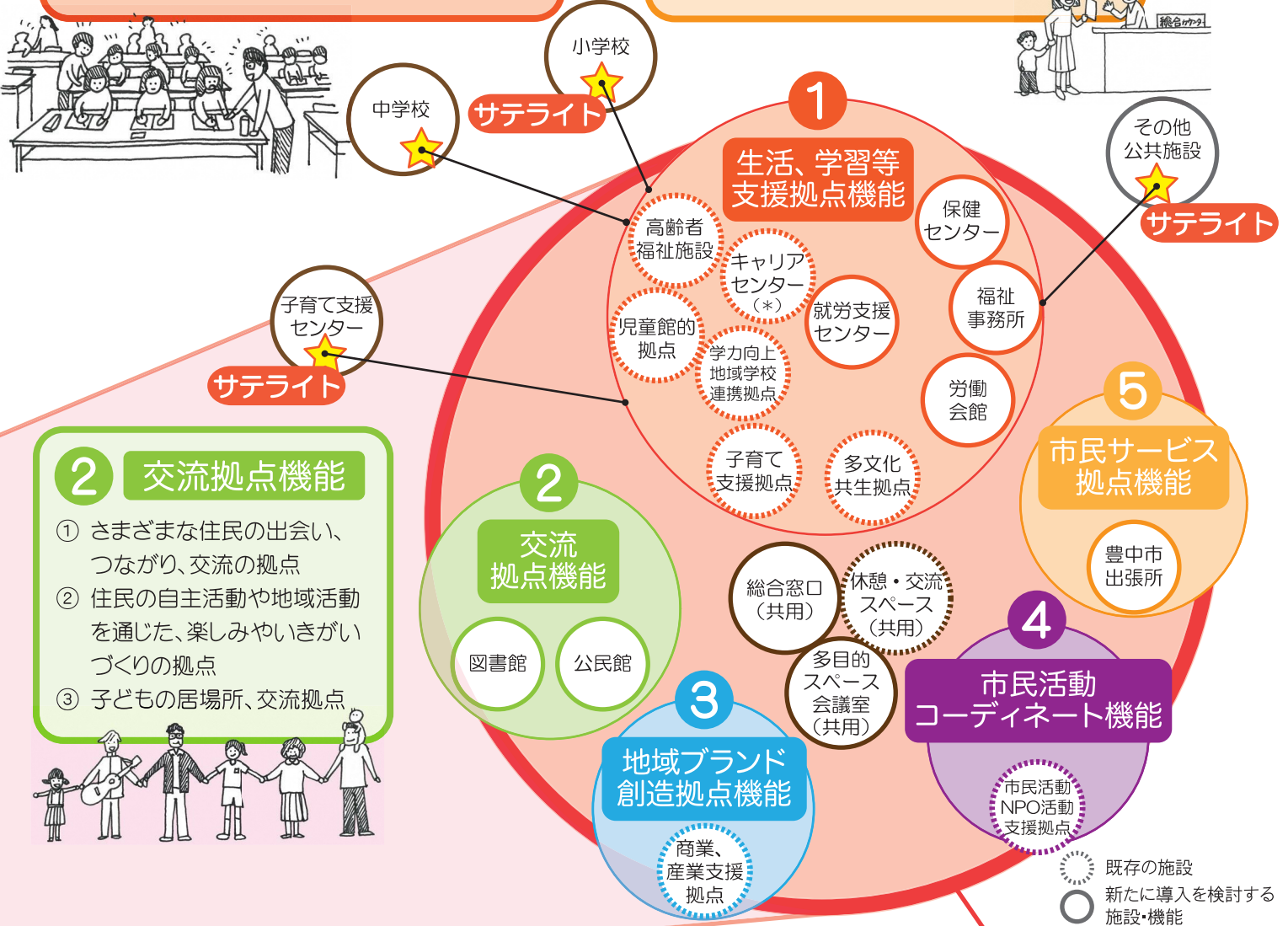
機能と施設構成

1 生活、学習等支援拠点機能

- ① 世代、ライフステージごとの課題への支援拠点
- ② 生活ニーズ、福祉ニーズに応じた支援拠点
- ③ 学校等の後方支援拠点
- ④ 家庭・地域の教育力向上への支援拠点

5 市民サービス拠点機能

- ① ワンストップで市民サービスを提供する拠点
- ② 地域協働型での市民サービス提供を行う、多様な公的施設、組織間のネットワーク拠点
- ③ 大規模災害時などの防災拠点



2 交流拠点機能

- ① さまざまな住民の出会い、つながり、交流の拠点
- ② 住民の自主活動や地域活動を通じた、楽しみやいきがいづくりの拠点
- ③ 子どもの居場所、交流拠点

3 地域ブランド創造拠点機能

- ① 主体的な住民活動、地域活動により地域へのほこりを形成する拠点
- ② 歴史、生活文化、商業、ものづくりの資源を生かした南部地域のブランドを創造、発信する拠点

(*)キャリアセンターとは
就労やキャリアアップに向けた支援事業の拠点。就労支援センターと産業支援拠点機能が連携してキャリアプラン形成支援のための相談事業や資格取得などのセミナー開催のほか、雇用の機会や訓練の場を広げます。また、学校連携拠点機能と連携してキャリア教育にも取り組みます。

(仮称) 南部コラボセンターネットワーク

4 市民活動コーディネート機能

- ① 多様な地域活動、市民活動を育み、つなげるための、相談やコーディネートの拠点
- ② 市民による支援活動、交流活動、創造活動の具体化、事業化をコーディネートする拠点

(仮称)南部コラボセンターの施設イメージ

1 気軽に人が集う「楽しい施設」

(仮称)南部コラボセンターがめざすのは、地域の日常を元気に、楽しくすることです。「特別な」「立派な」施設であるより、「馴染みの」「いつもの」「気軽な」施設であることが理想で、「用事のある人」だけではなく、「ふらりと立ち寄れる」ような、気軽に人が集う「楽しい場所」となるようめざします。

2 一体感のある「複合施設」

複合施設は、機能ごとにバラバラになりがち。(仮称)南部コラボセンターは、生活、学習等支援拠点機能など5つの機能がつながり、連続し、混ざり合った一体感のある施設とします。

子育て層、青少年など、利用者層ごとに1つのフロアーに複数の機能を集めることで「ヨコにつないだり」、吹き抜けをもうけて「タデにつなぐ」など、「つなぐデザイン」を工夫します。

3 頼りになる「専門施設」

(仮称)南部コラボセンターは、「誰でも」「いつでも」利用できる気軽な施設であると同時に、「誰かに」「必要なときに」しっかりとサポートできる専門施設として、地域住民を支える施設になることが求められます。

必要な支援体制と相談室などのスペースが整った施設にするとともに、「何かを」「誰かと」打ち込むことのできるような居場所として利用される施設をめざします。

4 まちに溶け込んだ、まちの魅力を発信する「名所施設」

(仮称)南部コラボセンターは、南部地域の活性化のきっかけとなり、シンボルとなることをめざすものです。そのような施設に求められるのは、「わかりやすさ」「入りやすさ」「かっこよさ」でしょう。

「わかりやすい」施設とするために、地域の誰もが知っているまちのランドマーク(目印、名所)となるデザインを、「入りやすい」施設とするために、よそよそしくない、まちとなじむデザインを、「かっこよい」施設とするために、「行きたくなり」「すめたくなり」「行かせたくなる」ようなデザインを検討します。

5 災害時の拠点となる「防災施設」

南部地域は、阪神・淡路大震災の際には、市内で特に大きな被害のあった地域で、現在でも、古くなった木造住宅が密集して集積しているなど防災面での課題を抱えています。(仮称)南部コラボセンターは、地域住民の暮らしを支える拠点として整備するもので、その考え方は災害時においても同様です。

平時だけでなく、災害時においても地域住民の暮らしを支える拠点になるよう検討します。

連携事業 / 南部地域の活性化と(仮称)南部コラボセンターの基本構想の具体化に向けてさまざまな取り組みを展開しています。

学力向上支援事業(日曜学習)

平成24年(2012年)11月4日～
平成25年(2013年)2月17日(日)10時～12時
対象:庄内小学校6年生 第六中学校全学年
講師:北野(きたの)隆司(たかし)さん(元・第十五中学校校長)
教職を希望する大学生・学習指導経験者(成人)

南部地域中学校で開催されている、放課後学習事業などの学力向上をめざす事業を、地域連携のもと公民館の施設・人的ネットワークなどを活用し、一体的に推進することをめざし、日曜日の午前中に開催しました。参加生徒は学校とは違う雰囲気の中、和やかに楽しく学習していました。



日本航空の折り紙ヒコーキ教室

庄内公民館・豊南小学校・健全育成会と連携事業

平成26年(2014年)2月9日(日)10時～12時 対象:小学生と保護者100名
当日参加:80名 参加費:100円 会場:豊中市立豊南小学校 体育館
講師:日本航空の整備士パイロットほか6名

日本航空の整備士、パイロットのお話がありました。子どもたちは30分間集中して話を聞いて、質問も積極的にしていました。折り紙ヒコーキ教室が始まりました。折り紙ヒコーキは、ヘソヒコーキといかヒコーキの2種類を作り、最後は学年ごとと保護者も一緒に、折り紙ヒコーキ競技を行いました。学年別に最も遠く飛んだ紙ヒコーキには、日本航空からの景品として折り紙ヒコーキ・スカイキングのプレゼントがありました。



(仮称)南部コラボセンター基本構想(概要版)

子どもに夢を！ 地域に輝きを！

南部地域がまとまる、つながる、元気になる。

豊中市

平成26年(2014年)3月発行
デザイン協力/街角企画株式会社